

特集 原発危険度ランキングを読む 超党派議員の会発表、専門家「ほぼ妥当」でも「下位も安全でない」

「脱原発」の声が高まる中、超党派の国会議員で作る「原発ゼロの会」が6月28日に発表した「原発危険度ランキング」が気になる。一体どんな内容なのか、妥当性はあるのか。そして政治的な狙いは？

【瀬尾忠義】

「福島第1原発事故を受け、国民の最大の関心事は原発の安全度。本来なら国が発表すべきランキング。私たちは、危険な原発から廃炉にするという道筋をつけたい」

ゼロの会事務局を務める阿部知子衆院議員（社民党）は作成の意図をそう語る。同会は、東日本大震災前から核廃棄物処理問題などに関心を持っていた議員らが集まり3月に結成。メンバーは衆参院議員10人。原子力安全・保安院の資料などの分析や、専門家を招いた勉強会を重ねてきた。

ランキングでは

原子炉の危険度（炉型・格納容器タイプ、経過年数など）配点6点

地盤などの危険度（耐震性、地盤状況）同5点

社会環境面（周辺人口、事業者への行政処分の実績）同4点の3分野9項目を評価した。

総合点は15点で、ポイント数が高いほど危険度が高い。技術的なアドバイスは反原発のNPO法人「原子力資料情報室」から受けた。周辺人口など“政治的”判断を加味したのが特徴だ。

全50基のランキングから、活断層の上にあったり、東日本大震災や中越沖地震などで被災してダメージを受けている可能性がある24基については「即時廃炉にすべき原発」として別表にした。

その他26基については「危険度ランキング」にまとめている。

「廃炉にすべき原発」のトップは「直下活断層がある可能性が大」とした日本原子力発電敦賀原発1号機（福井県敦賀市）。現在、活断層調査が行われている。菅直人前首相の判断で運転停止している中部電浜岡原発4号機（静岡県御前崎市）は3位で、関電美浜2号機（福井県美浜町）が「運転開始から40年近くたち、91年に緊急炉心冷却装置（ECCS）が作動した事故も起きている」ことを理由に2位に入っている。

一方「危険度ランキング」では、関電大飯原発1、2号機が10.75ポイントで最も危険と判断された。「稼働から30年以上経過し、地盤も悪い」が理由だ。

再稼働した大飯原発3号機、再稼働する4号機はそれぞれ5・85で12位とした。

このランキング、妥当性はあるのだろうか。

「活断層がある可能性が高い敦賀、浜岡、美浜、東通などが『即時廃炉』に入っており、変動地形学の観点からみて、ほぼ妥当だと思う。」「逆断層アトラス」などの共著がある東洋大の渡辺満久教授（変動地形学）はこう評価する。「原発施設は、地震の揺れについては免震建築などで工学的に抑えられるが、直下で断層がずれると、配管など重要設備への被害は抑えられない。危険な原発は廃炉にし、必要ならば別の安全な場所につくり直すべきだ。だが、電気事業者や政府は『活断層はない』という認識で原発建設を進めてきて、大震災後も反省しておらず、いずれ原発事故が起きる危険がある」と警鐘を鳴らす。活断層がある可能性が指摘される大飯原発3、4号機については「調査は数日でできる。実施すべきだ」と訴える。

原発の劣化問題を研究し、原子力安全・保安院のストレステスト意見聴取会委員を務める井野博満・東大名誉教授（金属材料学）は「老朽化した美浜1号機、玄海1号機が『即時廃炉』に含まれなかったことに疑問が残るが、ランキングはおおむね妥当だと考える。今後は老朽化を重視して検討すべきだ」と評価する。「ただ、ランキングには『危険度が低いから運転してもいい』という理由付けに使われる危険があることを認識すべきだ」と付け足した。

反原発で知られる京都大原子炉実験所の小出裕章助教も疑問を口にする。「順番で事故が起きるのではないし、ランキングが下位だからといって安全ではない。稼働年数が短いからといって事故が起きにくいということでもない。チェルノブイリ4号機の事故は運転開始約2年後、スリーマイル2号機は営業運転開始からわずか3カ月だった。そもそも原発は危険なのだから全て廃炉にすべきだ」

ランキングでは、防潮堤の高さや免震棟の有無、バックアップ電源の状況などは考慮していない。メンバーの近藤昭一衆院議員（民主党）は「今回は確定ではない。いろいろな意見や批判をいただき、電気事業者の情報公開の姿勢など政治的な観点も考慮して見直していく」としている。

民主党が分裂し、政局がきな臭い中、超党派とは気になる。阿部氏は「イデオロギーではなく、どう原発を終わらせていくのかを考えた。超党派でないと政策を実現できないと思った」と説明する。

入会には“誓約書”(阿部氏)への署名が必要だ。「すべての原子炉の廃炉と使用済み核燃料の再処理を行わないことを政治公約にする。所属政党を問わず信念を持って実現させることに全力をあげる」などと明記されている。今後は「原発ゼロマーク」を作製し、国政選挙でポスターにマークを貼ることも検討中。ただ、新党結成は否定する。「一つの問題だけで政党は結成できない」(近藤氏)というのがメンバーの共通認識だからだ。

同会は廃炉と立地自治体支援を両輪と位置付ける。被災地の宮城県選出の斎藤恭紀衆院議員（新党きづな）は「女川原発を廃炉にしたら女川町は成り立たない。廃炉を地元には押しつけては反発を招くだけ。産業をどう再生するのかを検討し、自治体支援の工程表を作成したい」と話す。

「夕張の二の舞いにはしてはいけない」と訴えるのは、北海道選出の長谷川岳参院議員（自民党）だ。夕張炭鉱閉山後の衰退を知るだけに「支援は地域の特性を發揮できる内容にすべきだ」と話す。北海道電力泊原発廃炉後は「日本海上の強い風や海流を使った海洋エネルギーの供給拠点にできる。ガス類の輸入拠点への転換も可能だ」と提案する。

今後、同会はメンバーを増やし、廃炉に向けた政策を詰めて法案提出を目指す。小沢一郎衆院議員らが11日に旗揚げした「国民の生活が第一」も脱原発を掲げているが、協調はあるのだろうか。「ウエルカム(歓迎)ですよ。ただ、私たちの覚悟と目指す政策ははっきりしている。政策実現に数は必要だが、ファッションだけで来てもらっては困る」(阿部氏)

---

2012年7月6日

河野太郎公式サイト > 河野太郎公式ブログ ごまめの歯ぎしり > 原発危険度ランキング(原発ゼロの会)

原発ゼロの会では、原発危険度ランキングを発表しました。

新しい原子力規制委員会が立ち上がり、安全基準の見直しが行われた後、もし、再稼働が必要ならば、どの原発から再稼働を考えるべきなのか、どの原発はこのまますぐに廃炉にすべきなのか、原発を危険度の視点から見ていこうというものです。

原子力資料情報室や東洋大学の渡辺教授をはじめ、様々な専門家による提言を、原発ゼロの会でまとめ、配点してランキングしました。

何を重要視するかで配点が変われば、ランキングも変わりますが、まず、われわれが一つを提案し、それによって国民的な議論が始まればよいと考えています。

わかりやすさを重視して、簡略にした部分もあります。

もちろん、大飯原発のF-6の断層調査などが行われれば、このランキングもアップデートが必要になります。